

# 大和郡山 防災ニュース 2.7月

このニュースは、市内で防災に関わる住民の皆さんに、動きや情報を提供します。

## 地震のとき、あなたの取るべき行動は？

7月9日は、今から166年前、江戸時代末期の1854年に現在の三重県伊賀市を震源とする伊賀上野地震が発生した日です。本市でもこの地震で推定震度6の揺れを記録し、150人ともいわれる死者を出し、城下町では、液状化現象も発生したと記録されています。この地震は内陸の活断層が動く直下型で、これから将来においても、私たちが最も警戒しなければならないタイプの地震です。



### コロナウイルス感染防止を意識した分散避難を！

同じ直下型地震で記憶に刻まれているのは、25年前の阪神大震災ではないでしょうか。その際、学校の体育館など被災地の指定避難所は被災した避難者でギュウギュウ詰めになり、また避難所から溢れて入れない被災者は支援を受けられない状態であったと聞きます。

現在はコロナウイルスの感染防止のため、「密」を避けなければなりません。もし、阪神大震災のような状況になれば、感染が爆発的に進行してしまう可能性があります。

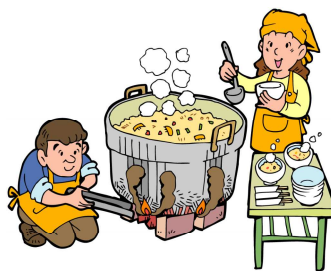
このため、いかに分散しながら避難できるかが課題となっています。それでは、私たちがこのような地震に備えて、どのようなことを準備すれば良いのでしょうか？



### 在宅避難でも支援は受けられる！

阪神大震災の時は、避難所に入れなかった人は、食料や水などの支援、配給が受けられなかったとお話ししました。現在は、この反省から在宅や屋外テント、乗用車など避難所外で避難する住民も避難所内同様の支援、配給を受けられるようになっています。

なお、避難所外避難住民としての便益を受けるためには、当該避難所において名簿登録することが必要です。昨年の治道地区訓練を通じた避難所マニュアルづくりの中では、避難所外避難住民の登録名簿作成や食料、水の受け渡しについても、それぞれの自治会で担当することになりました。いざ災害時に避難所内や在宅のそれぞれの住民が機材・食材を持ち寄った炊き出しなど協力ができたら、と思います。



## 自宅に耐震性があるか確認してみよう！

災害の時でも、もし自宅が無事ならば、そこは安心できる避難空間となります。昭和56年6月以後に着工された建物は、「震度5強程度の中規模地震では軽微な損傷、震度6強から7に達する程度の大規模地震でも倒壊は免れる」という現在の耐震基準で建てられています。自宅の建築年についても調べておきましょう。また、昭和56年以前に着工された建物であっても、どのくらいの耐震性があるのか、を調査して、耐震性の不足を工事で補うこともできます。市では、「大切な我が家を守るため、考えてみませんか？住宅の「地震対策」」ということで、既存の木造住宅の耐震性の無料診断や耐震改修工事補助制度をご用意しています。この機会に住宅の耐震化を検討していただけたらいかがでしょうか？

なお募集件数に限りがありますのでご注意ください。  
詳しくは、つながり6月1日号に掲載しています。



## 自宅のブロック塀は安全？



2年前の6月18日発生した大阪北部地震では、学校のプールのブロック塀が倒壊し、幼い命が奪われる事故が発生しました。このことを機に本市においても、町中で老朽化したブロック塀に対するご心配の声をたくさんいただき、所有者との協議の結果、塀の改修工事を行ったり、撤去していただいたケースもありました。このような危険なブロック塀の撤去工事についても工事費用の補助制度がございます。これについても、つながり6月1日号をご覧ください。

## 編集後記

近年は、毎年のように日本のどこかが大水害に見舞われています。

今年も先日の九州の豪雨で大きな被害が出ました。本市も8日未明に土砂災害の警戒を伴う大雨警報が発令され、市民安全メールで垂直避難の実行をお願いし、午前7時前に自主避難所として、矢田コミュニティ会館と昭和地区公民館を開設しましたが、幸い被害の報告はありませんでした。この出水期、何度か出勤はあるでしょうが、大きな災害にならずに乗り切れたらと思っています。

ニュースは、市民安全課、市内の各支所、矢田コミュニティ会館、南部公民館で配布しています。また、市のHPでもご覧になれます

大和郡山防災ニュース 🔍 検索

消防団のニュースは、『大和郡山市消防団へようこそ！』をご覧ください

大和郡山市消防団へようこそ 🔍 検索

発行人 市役所市民安全課